

図書だより

夏休み直前号！

7月発行 第4号
かほく市立高松中学校図書館

夏休みの本は借りましたか☆彡

夏休みの本の貸出が始まっています。7月8日以前に借りた人は一旦返して、夏休み用の本を借りましょう。一人**5冊**まで借りることができます。(もちろんまんがも借りることができます)

今年の夏も暑さが懸念されます。本に集中して暑さを忘れる、という過ごし方もありなのではないでしょうか♪



かほく市ケーブルテレビ放映

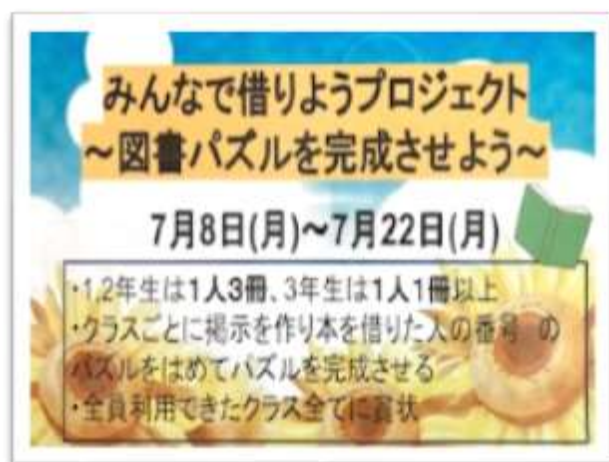


先月、ケーブルテレビの撮影があり、図書委員長さんをはじめとする3年生の図書委員さんが、高中の図書館を素敵に紹介してくれました。8月2日(金)までかほく市のケーブルテレビで放送されています。ぜひ見て下さいね。図書館でも昼休みに一部流したいと思います。

みんなで借りようプロジェクト 図書パズルを完成させよう！

図書委員会のイベントで「みんなで借りようプロジェクト～図書パズルを完成させよう！～」を行っています。クラスの皆で協力して、パズルを達成しようという取り組みです。1, 2年生は3冊以上、3年生は1冊借りることで、生徒番号の箇所にパズルのピースが貼られます。達成クラスには瀧本先生特製の賞状が貰えます。

現在、**3-2, 2-2** が達成しました！！3-3、2-1、1-1も達成目前。他のクラスも、ファイト！！また全クラスの図書パズルが完成したら、図書館前にあるくす玉を割る予定です。皆で協力して、賞状をゲットし、くす玉を割りましょう！



達成した3-2↑、2-2の→
完成パズル！



今年の「読書感想文 課題図書」はこれだ！

1, 2年生には朝読書の時間にブックトークをしましたね。読んでみたい本はありましたか。右の本「カンタン齋藤孝の最高の読書感想文」(齋藤孝/著 KADOKAWA)によると、「本にラブレターを出すつもりで読書感想文を書く」といいそうですよ。



「ノグツドウライオウ」 (佐藤まどか/著 あすなろ書房)



夏希の家は100年続く老舗オーダーメイド靴店「往来堂」。店主である祖父は、マエストロと呼ばれている。物語は夏希の兄が「店は継がない」と家を出て行くショッキングな場面から始まる。お兄ちゃんがお店を継いで、自分はシューズデザイナーになりたい、と思っていた夏希の肩に跡継ぎの荷がずっしりかかってくる。

そんなある日、お店の立ち退きを迫る土地開発会社の人(ストライプさん)の靴が足に合っていないことを見抜いた祖父が、ストライプさんの靴を作ることに。祖父が作った靴を履いたストライプさんは・・・！！

祖父の仕事が、お客さんの人生を変える素敵な仕事であることに気付いた夏希は、自分の進むべき道を決めていきます。クラスメイト宗太とのやり取りも楽しい。

モノ作りに興味がある人、どんな気持ちで仕事を決めたら良いか知りたい人、仕事について自分なりに考えてみたい人にお薦めします。

「希望のひとしずく」 (キース・カラフレゼ/著 理論社)



アメリカのオハイオ州には願いを叶えてくれる井戸があるという。授業でそんな伝承の話聞いた、アーネスト、ライアン、リジーの三人は、偶然その井戸の底に通じる洞穴を見つける。そして思いがけずに、転校してきたばかりのクラスメートの「友達が欲しい」という願い事を聞いてしまう。

時を同じくして、屋根裏部屋の片付けを祖父より頼まれていたアーネストは、屋根裏部屋にあったあるものが、そのクラスメートの願いを叶えてくれるかも知れないと閃く。

一見関係ないと思えるものが、ちょっとした誰かの優しさでいろんな人の手に渡り、奇跡のように繋がって願いが叶っていく。もしかして、願いを叶えるのは、誰かを思うちょっとした優しさなのかもしれない、自分の思いも、もしかしたら誰かの幸せに繋がっているのかもしれない、そんな思いに心が温くなる物語です。三冊の中では一番長いお話ですが、物語が好きならぜひチャレンジして欲しい一冊です。登場人物の相関図をメモしながら読むといいかも！

「アフリカで、バッグの会社はじめました」 (江口絵理/著 さ・え・ら書房)



本当にある話、ノンフィクションです。仲本千津さんという女性が、アフリカのシングルマザーさん達に作ってもらったバッグを日本のホームページで売る会社を立ち上げました。なぜ仲本さんは、アフリカで会社を作ることにしたのでしょうか。最初、仲本さんは弟さんを不幸な事故で失ってから、人の命を助ける仕事がしたいと医者を目指していました。ところが実際には、銀行員になりNGO職員になり・・・全く違う道を歩みます。でもある時、アフリカでは貧しさから命を落とすこともあると知った仲本さんは、アフリカの人も仕事に誇りを持てたら、お金も入るし、気持ちも救われると思い、思い切って会社を立ち上げたそうです。

仲本さんの道のりは決して真っ直ぐではありません。でも自分がやりたいことを追いかけた結果、辿り着いた道です。パワフルに前に突き進む彼女に、まずは自分のできることから始めてみたらいいんだよ、と元気をもらえます。人生遠回りに思えても無駄じゃないんだよ、と教えてくれるようです。

